

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ありんこルーム			放課後等デイサービス
○保護者評価実施期間	2024年 11月 18日		～	2024年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2024年 11月 18日		～	2024年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各関係機関との情報をしっかりと共有していることで、実際子ども達に支援する際配慮することができる。	発達段階と特性を理解したうえで、個別的な支援プログラムですすめる。	情報を交換する中で、その時に合ったニーズや課題をしっかりと踏まえたうえで支援にあたる。
2	少数人数での少数断活動での活動が出来るため、何かあった時に個別対応に切り替えられる。	個別支援計画やモニタリング、保護者様、他各関係機関と連携をとっている為、子ども一人ひとりにあった対応、情報をもとに支援する。	情報機関含め、本人さんとも関わることでその時の悩みや相談も聞ける・寄り添える環境を作る。
3	支援プログラムは運動・集団活動・個別活動と明確に分けられており、それぞれ目的を設定して取り組める環境を作っている。	子ども一人ひとりの特性や個性に配慮してプログラムの計画を行っている。	より専門性を高めた支援を提供するためのスキルアップ、支援環境の充足。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスの利用者がほとんどであり為、保護者の方と直接話す機会が限られてしまう。	保護者にとってはメリットである方も多いと思われるため、他の形で保護者様との連携をとれる手段を取り入れていく。	定期的に保護者会を行ったり、面談を行うことで、より一層連携をとり更なる信頼関係の構築を図る。
2	個別対応を必要とする子どもが増えてきている今、スタッフ同士の連携がスムーズな時とそうでない時がある。	スケジュールの変更、見直しやスタッフ一人ひとりの意識・状況判断の出来るスタッフ同士のチームワーク作りを行う。	振り返りを中心に、スタッフ同士が一人ひとり意見を言える・声をかけ合う事ができる話し合いをした上で実行しコミュニケーションを増やす。
3	活動エリアが広く、注意散漫になる場面がある。	活動エリアの広さ	エリアを分けるパーティションを設置したが、パーティションに気を取られるので改善が必要。